



館長だより

山形県産業科学館

令和 6 年 8 月 2 4 日 (土)

発行 館長 加藤 智 一

蔵王樹氷の危機 針葉樹アオモリトドマツはなぜ枯れた

標高 1600 メートルを超える蔵王ロープウェイ地蔵山頂駅周辺。例年冬になると蔵王を代表する冬の風物詩「樹氷」が姿を現し、私達に冬山の厳しさを教えてくれるとともに、自然が作り出す造形美を見せてくれる。

樹氷は、雪雲のなかの「過冷却水滴」がアオモリトドマツなどの枝や葉にぶつかり、エビの尻尾のように成長しながら凍り付き、さらに着いた氷の隙間に多くの雪が取り込まれ、0℃付近の雪は互いにくっついて固まることからスノーモンスターへと変容していく。

ところが、夏の蔵王ロープウェイ地蔵山頂駅付近をご覧になったことがあるだろうか。葉のない白い幹の木が約 17 ヘクタールに及び立ち並び、無残な姿をさらしている。樹氷を見るためには、何もないより、立ち枯れた木でも無いよりましといったところかもしれないが、夏の姿を見るにつけ、寒々とした気分になってしまうのは私だけではないと思う。

アオモリトドマツを襲った悲劇の原因は、ある虫によるものであると言われている。はじめに蛾の一種「トウヒツヅリヒメハマキ」の幼虫がアオモリトドマツに取り付き、大規模な落葉や変色が発生した。さらに数年後、この食害が収まったところに今度は弱ったアオモリトドマツに甲虫の一種「トドマツノキクイムシ」が侵入し、立ち枯れが多発してしまったという。

度々新聞やテレビでも報道されているように、林野庁は、ボランティアの助けも借りながら、他の場所に自生する苗を激害地へ移植したり、苗木を育てるため種の採取など再生を始めていますが、樹氷を研究する山形大の柳沢文孝名誉教授の話では、蛾の発生原因について、50 年前と比較し年間平均気温が約 2~3 度上昇したため「夏場に蛾が過ごしやすい環境になってしまい、再び蛾が襲来する可能性もある。」とのこと。加えてマツの再生には 50~70 年程度かかることから、アオモリトドマツが元通りになるかもしれない 21 世紀末には、そもそも樹氷ができない環境となっているかもしれない。いったいどうしたらいいのでしょうか。このまま環境の変化を見て見ぬふりしていいのでしょうか。

なんともモヤモヤした気分で、「これ以上温暖化の

影響が出ませんように。」と私は今、お地蔵さんをお願いしているしだいです。



トウヒツヅリヒメハマキ



トドマツノキクイムシ

科学アイテム定期メンテナンスのお知らせ

8月26日(月)~8月29日(木)の期間
産業科学館では、一部科学アイテムの定期メンテナンスを行います。

お目当ての科学アイテムを楽しみにしてお出で下さる皆様には、ご不便をお掛けしますが、安全にご利用していただくためですので、ご理解下さいますようお願い申し上げます。

